里山と薪ストーブユーザーを直接つなぐ

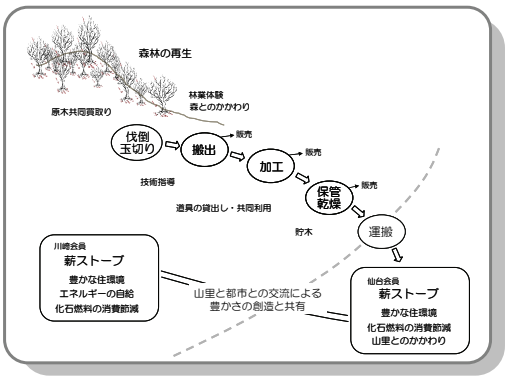
川崎－仙台薪ストーブの会

薪を通して森を想い、薪を通して森とかかわる

東北大学　池上真紀　富田　昇　新妻弘明　　ＮＰＯ法人川崎町の資源をいかす会　菊地重雄

木質バイオマスの利用拡大のためには、資源の賦存と需要の形成だけでなく、両者をつなぐ供給体制、流通機構まで含めた社会全体の仕組みを整えることが不可欠である。一方、かつての薪炭林の放置、それによるナラ枯れの被害拡大、生物多様性の喪失など、里山をめぐる問題が全国各地で表面化し、二次林の手入れが急務となっている。川崎－仙台薪ストーブの会では、宮城県川崎町や仙台市近郊の薪ストーブユーザーと同町の里山を直接つなぐ仕組みにより、木質バイオマスの利活用を行なっている。

川崎－仙台薪ストーブの会の活動



２００７年７月発足
個人会員　111名
法人会員　3社
（２０１０年８月現在）



目的

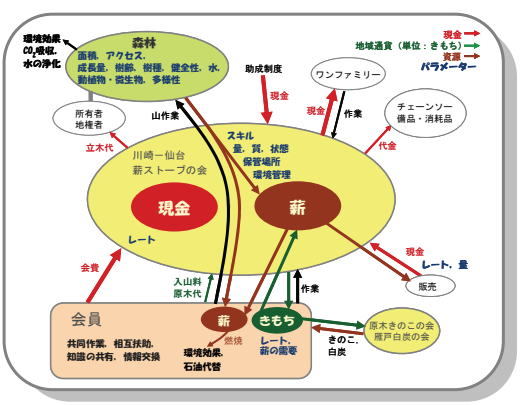
薪を通して川崎の森を想い、人と出会い、森とかかわって、暖かい薪ストーブ、暖かい人の環、よみがえる山里の、豊かな地域社会をつくりあげること

意義

- 川崎町および仙台地域での薪ストーブの普及による化石燃料消費節減とエネルギーの自給
- 薪ストーブ特有の豊かな住環境の実現
- 森の資源の多様な活用と二次自然の再生
- 山里と都市との交流による豊かさの創造と共有

活動

- 立木の購入
  毎年、会で町内の1haほどの里山の立木を購入。
- 薪の生産
  会員自ら山に入り、薪をつくる。伐倒作業は冬季のみで、小規模皆伐を実施。
  立木の伐倒／玉切り／搬出／薪割り／保管・乾燥
  Ａ作業：自家用の薪をつくる。
  Ｂ作業：共同作業により、会のストック用の薪をつくる。
- 林内の共同作業
  薪置き場の整備／薪棚づくり／道路・林道整備／駐車場整備
- 勉強会
  植物観察会／林業技術講習会／薪ストーブ勉強会／研修会／講演会／交流会
- 調査
  - 伐採後の区画の萌芽更新状況の調査
  - 伐採区画および未伐採区画の植生調査、生物多様性調査
- 補助金の共同申請
- 地域通貨「きもち」
  - 「１きもち」は薪１束の価値を持つ。
  - Ａ作業の際に持ち帰った薪の量に応じて、会員が会に「きもち」を支払う。
  - Ｂ作業や林内作業を行なった会員への対価として、会が会員に「きもち」を発行。
  - 薪の交換と販売
    会員は、持っている「きもち」を、会にストックされた薪や各生産段階の薪、木炭、きのこなどといつでも交換可能。
    会は、ストックされた薪のうち、会員分を確保した残りを外部に販売可能。
  - 「きもち」は会員が将来のために薪を備蓄するだけでなく、薪作りを手伝ってくれた人へのお礼や贈答に用いることもできる。

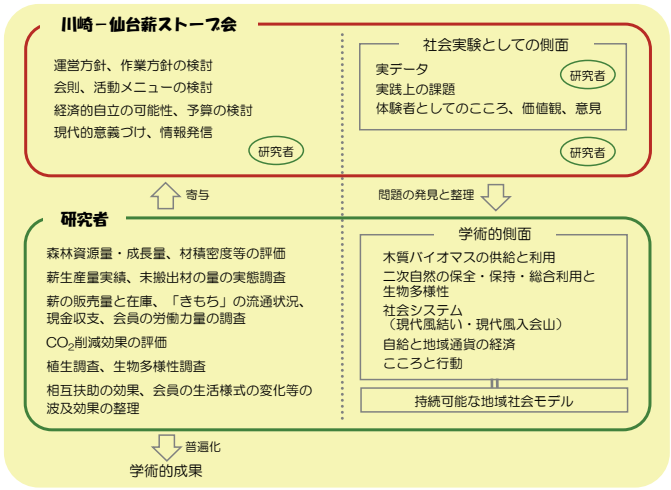


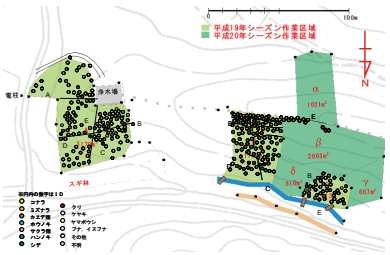


地域通貨「きもち」
1/4きもちと1きもちがある

研究者の役割

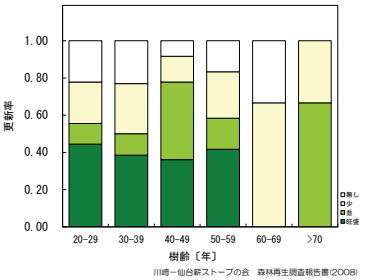
それぞれの地域での暮らしが持続可能なものになるよう、一個人として、また専門家として、地域活動を下支えするのが研究者の役割であると考えている。





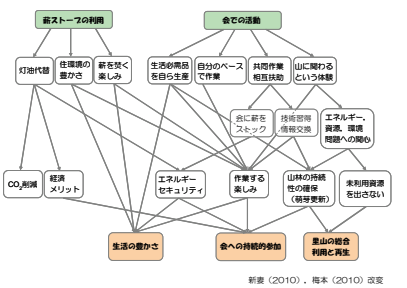
2007年冬に皆伐した区画で翌年、樹種、樹齢、萌芽更新状況の調査を実施。コナラ、ミズナラが全木数の半数以上を占め、樹齢は40～50年と30年前後の2箇所にピークが見られた。

伐採区画の萌芽更新調査



萌芽更新調査の結果、全木数の約8割の更新を確認。樹齢60年を過ぎたものは更新率が低下する傾向が見られる。

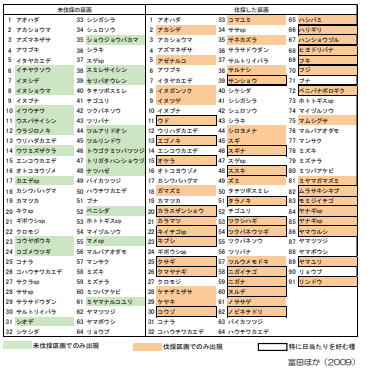
樹齢と萌芽更新率の関係（コナラ）



新妻（2010）、梅本（2010）改変

薪ストーブを設置し、会の活動に参加することにより、会員の家庭にもたらされる様々な波及効果。経済メリットだけでなく、多くの市場外部的価値がもたらされることが、会への持続的参加の条件と考えられる。

会員世帯の生活様式の変化



伐採区画と未伐採区画で植生調査を実施し比較した結果。伐採区画の方が生物多様性が高く、特に、伐採区画でのみ出現した植物には人間の暮らしに関わりの深いものが多い。

伐採区画の植生調査